

I 非等速円運動，複数物体系

【メモ】

・問 1, 問 2 は非等速円運動．以下 2 式を連立して解く．

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{運動方程式の中心成分} \\ \text{力学的エネルギー保存則} \end{array} \right.$$

・問 3 以降は複数物体系の力学．全体を 1 つと見て保存則を連立するのが基本．

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{運動量保存則} \\ \text{力学的エネルギー保存則} \end{array} \right.$$

【解答】

問 1 力学的エネルギー保存則より，

$$\frac{1}{2}mv_0^2 = mgh, \quad \therefore v_0 = \sqrt{2gh}.$$

問 2 運動方程式（中心成分）より，

$$m \frac{(\sqrt{2gh})^2}{h} = S - mg, \quad \therefore S = 3mg.$$

問 3 運動量保存則より，

$$mV_1 + MV_1 = mv_0, \quad \therefore V_1 = \frac{m}{M+m} \sqrt{2gh}.$$

問 4 力学的エネルギー保存則より，

$$\frac{1}{2}mV_1^2 + \frac{1}{2}MV_1^2 + \frac{1}{2}kX^2 = \frac{1}{2}mv_0^2, \quad \therefore X = \sqrt{\frac{2Mm}{k(M+m)}gh}.$$

問 5 力学的エネルギー・運動量保存則より*1，

$$\left\{ \begin{array}{l} \frac{1}{2}mv_2^2 + \frac{1}{2}MV_2^2 + 0 = \frac{1}{2}mv_0^2, \\ mv_2 + MV_2 = mv_0, \end{array} \right. \quad \therefore v_2 = \frac{m-M}{M+m} \sqrt{2gh}, \quad V_2 = \frac{2m}{M+m} \sqrt{2gh}.$$

*1 力学的エネルギー保存則は，

$$MV_2^2 = m(v_0 + v_2)(v_0 - v_2)$$

と変形できて，ここに運動量保存則から得られる $MV_2 = m(v_0 - v_2)$ を代入すると楽（これははね返り係数が 1 の式と同値）．

問6 物体が台に対して静止したときの2物体の速度を v とする。運動量保存則より、

$$mv + Mv = mv_0, \quad \therefore v = \frac{m}{M+m}v_0.$$

各物体の変位をそれぞれ x , X とすれば、エネルギー収支より、

$$\begin{cases} \frac{1}{2}mv^2 - \frac{1}{2}mv_2^2 = \mu mgx, \\ \frac{1}{2}Mv^2 - \frac{1}{2}mV_2^2 = -\mu mgX \end{cases} \quad \therefore L = X - x = \frac{M}{M+m} \frac{h}{\mu}.$$

II 点電荷

【メモ】

・仕事の計算は以下の3つに分類される。

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{定義通り} \\ \text{エネルギー収支から逆算} \end{array} \right\} \begin{cases} F \text{ が一定なら } W = |\vec{F}| |\Delta\vec{r}| \cos\theta \\ F \text{ が非一定なら 1次元に帰着し } W = \int_{x_1}^{x_2} F dx \end{cases}$$

エネルギー収支を用いた仕事の計算は、どこまでを1つの系と見なすかが重要。

【解答】

問1 電場の x 軸成分は相殺し 0. 公式より,

$$E_C = \frac{kQ}{a^2 + b^2} \frac{b}{\sqrt{a^2 + b^2}} \times 2 = \frac{2kQ}{\underbrace{(a^2 + b^2)^{\frac{3}{2}}}}$$

問2 $x > a$ では,

$$V(x) = \frac{kQ}{x-a} + \frac{kQ}{x+a} = \frac{2kQx}{x^2 - a^2}.$$

$-a < x < a$ では,

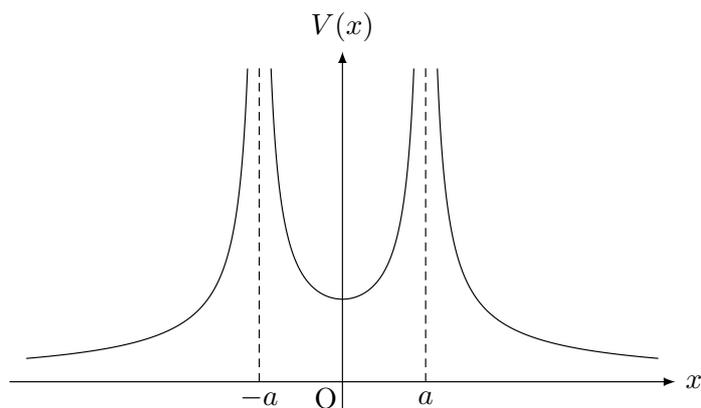
$$V(x) = \frac{kQ}{a-x} + \frac{kQ}{x+a} = -\frac{2kQa}{x^2 - a^2}.$$

$x < -a$ では,

$$V(x) = \frac{kQ}{a-x} + \frac{kQ}{-a-x} = -\frac{2kQx}{x^2 - a^2}.$$

よって,

$$V(x) = \begin{cases} \frac{2kQ|x|}{x^2 - a^2} & (|x| > a), \\ -\frac{2kQa}{x^2 - a^2} & (|x| < a). \end{cases}$$



問3 公式より,

$$F = \frac{2kQb}{(a^2 + b^2)^{\frac{3}{2}}}.$$

問4 系(物体と電場)全体の力学的エネルギー収支より,

$$\begin{aligned} W_{\text{ex}} &= \left(\frac{1}{2}m \cdot 0^2 - \frac{1}{2}m \cdot 0^2 \right) + \left\{ q \left(\frac{kQ}{4a/3} + \frac{kQ}{2a/3} \right) - q \left(\frac{2kQ}{\sqrt{a^2 + (3a/4)^2}} \right) \right\} \\ &= \frac{13kQq}{20a}. \end{aligned}$$

問5 系(物体と電場)全体の力学的エネルギー保存則より,

$$\frac{1}{2}mv^2 + \frac{kQq}{a} \times 2 = \frac{1}{2}m \cdot 0^2 + \frac{kQq}{4a/3} + \frac{kQq}{2a/3}, \quad \therefore v = \sqrt{\frac{kQq}{2ma}}.$$

問6 問2の図と同様に考えれば, $x = -\frac{a}{6}$ で電位が最小になり, この位置で速さは最大となる. 力学的エネルギー保存則より,

$$\frac{1}{2}mv^2 + \frac{kQq}{5a/6} + \frac{kQq}{5a/6} = \frac{1}{2}m \cdot 0^2 + \frac{kQq}{2a/3} + \frac{kQq}{a}, \quad \therefore v = \sqrt{\frac{kQq}{5ma}}.$$

【補足1】問5

物体のみを系と見れば,

$$\begin{aligned} \frac{1}{2}mv^2 - \frac{1}{2}m \cdot 0^2 &= \int_{-\frac{a}{3}}^0 \left\{ -\frac{kQq}{(x-a)^2} + \frac{kQq}{(x+a)^2} \right\} dx \\ &= \left[\frac{kQq}{x-a} - \frac{kQq}{x+a} \right]_{-\frac{a}{3}}^0 \\ &= \frac{kQq}{4a} \\ \therefore v &= \sqrt{\frac{kQq}{2ma}}. \end{aligned}$$

【補足2】問6

位置 x における点電荷の運動エネルギーは,

$$\frac{1}{2}mv^2 = \left(\frac{kQq}{2a/3} + \frac{kQq}{a/3} \right) - \left(\frac{kQq}{x+a} + \frac{kQq}{2a/3-x} \right)$$

であり, 2つ目の括弧の中身が最小であるときを考えればよい. これを $u(x)$ と記せば,

$$u(x) = \frac{kQq}{x+a} + \frac{kQq}{\frac{2a}{3}-x} = \frac{\frac{5}{3}a}{-\left(x+\frac{a}{6}\right)^2 + \frac{25}{36}a^2}$$

となり, $x = -\frac{a}{6}$ で最大値をとることがわかる.

III 幾何光学

【メモ】・幾何光学で用いる物理法則は屈折の法則のみ。あとは図形の考察を行う。図形の考察は、

- 角と角 → 平行線，または三角形の内角・外角
- 辺と辺 → 相似を利用
- 角と辺 → 三角比を利用*2

によって行う。

【解答】

問1 スネル則より，

$$n_0 \sin i = n_1 \sin r, \quad \therefore \frac{n_1}{n_0} = \frac{\sin i}{\sin r}.$$

問2 頂点 A とプリズム内を通る光線からなる三角形の内角に注目して，

$$\alpha + \left(\frac{\pi}{2} - r\right) + \left(\frac{\pi}{2} - i'\right) = \pi, \quad \therefore i' = \alpha - r.$$

問3 スネル則より，

$$\begin{cases} n_0 \sin i = n_1 \sin r, \\ n_0 \sin r' = n_1 \sin i', \end{cases}$$

$i = i_1$ のとき， $r' = i_1$ より，

$$\begin{cases} n_0 \sin i = n_1 \sin r, \\ n_0 \sin i_1 = n_1 \sin(\alpha - r), \end{cases} \quad \therefore \sin(\alpha - r) = \sin r, \quad \therefore r = \frac{\alpha}{2}.$$

よって，

$$n_0 \sin i_1 = n_1 \sin \frac{\alpha}{2}, \quad \therefore \frac{n_1}{n_0} = \frac{\sin i_1}{\sin(\alpha/2)}.$$

問4 $n_{\lambda_2} > n_{\lambda_1}$ より， n_{λ_1} ， n_{λ_2} の光の面 AB での屈折に対する屈折角をそれぞれ r_1 ， r_2 とすれば，

$$\frac{\sin i}{\sin r_2} > \frac{\sin i}{\sin r_1}, \quad \therefore r_1 > r_2.$$

よって，面 AB の入射後の光線の様子としては，波長 λ_1 の光線が λ_2 の光線よりも上にある状況となる。

*2 正弦定理，余弦定理に注意。

続いて、面 AC での屈折に対する入射角をそれぞれ i'_1 , i'_2 , 屈折角をそれぞれ r'_1 , r'_2 とすれば,
 $i'_2 > i'_1$ より,

$$\frac{\sin r'_2}{\sin i'_2} > \frac{\sin r'_1}{\sin i'_1} > \frac{\sin r'_1}{\sin i'_2}, \quad \therefore r'_2 > r'_1.$$

以上より, (b)*³.

問5 面 AC におけるスネル則より,

$$n_0 \sin r' = n_1 \sin i', \quad \therefore \sin r' = \frac{n_1}{n_0} \sin i' > 1$$

ならば屈折角 r' は存在せず, 全反射が観測される. よって*⁴,

$$\underbrace{\sin i' > \frac{n_0}{n_1}}.$$

問6 $i = i_3$ のとき i' は臨界角となり $r' = \frac{\pi}{2}$ である. $n_0 = 1$ より,

$$\begin{cases} 1 \cdot \sin i_3 = n_1 \sin r, \\ 1 \cdot \sin \frac{\pi}{2} = n_1 \sin i' = n_1 \sin(\alpha - r). \end{cases}$$

ここで, 下の面 AC での屈折に関する式より*⁵,

$$\begin{aligned} n_1(\sin \alpha \cos r - \cos \alpha \sin r) &= 1 \\ n_1 \left\{ \sin \alpha \sqrt{1 - \left(\frac{\sin i_3}{n_1}\right)^2} - \frac{1}{n_1} \cos \alpha \sin i_3 \right\} &= 1 \\ \sin^2 i_3 + 2 \cos \alpha \sin i_3 + 1 - n_1^2 \sin^2 \alpha &= 0 \\ \therefore \sin i_3 &= \underbrace{-\cos \alpha + \sqrt{(n_1^2 - 1) \sin^2 \alpha}}. \end{aligned}$$

*³ このような議論をしなくても, $n_{\lambda_2} > n_{\lambda_1}$ より, λ_2 の光の方がよく曲がることから (b) と判断してよい.

*⁴ この不等式を入射角 i , 頂角 α , 屈折率 n_0 , n_1 だけで書くと以下のようなになる (計算は各自).

$$\sin i < -\cos \alpha + \sqrt{(n_1/n_0)^2 - 1} \sin \alpha.$$

また, 全反射が観測されるためにはこのような入射角 i が存在する必要がある, そのためには, 屈折率を以下の不等式を満たすように選ぶ必要がある (上記不等式において $0 < \sin i < 1$ を考える).

$$\sin \frac{\alpha}{2} < \frac{n_0}{n_1} < \sin \alpha.$$

*⁵ $i = 0$ ゆえ, $r = 0$, $i' = \alpha - r = \alpha$ であり, このときに全反射することから, スネル則より,

$$\sin r' = n_1 \sin i' = n_1 \sin \alpha > 1.$$

ここで,

$$\sin i_3 = -\cos \alpha + \sqrt{\cos^2 \alpha + n_1^2 \sin^2 \alpha + 1}$$

より, $\sin i_3 > 0$ が確認できる.

